

京都府 公立高校の入試制度

【2020年度版】

入試概要

京都府の公立入試は全部で3回あります。

●前期選抜

全ての学校・学科で実施。定員の100%を募集する学科もある。
(帰国生や長期欠席者等が対象の特別選抜も同じ日程で実施)

●中期選抜

前期で100%を募集する学科以外で実施。定員から前期募集人員を除いた人数を募集。
普通科はこの日程が中心になります。

●後期選抜

前期・中期で欠員がある場合に実施。過去の実績ではほとんどの学校で実施されていません。

	出願期間	試験日	合格発表
前期選抜 (音楽科)	2/4・5 (1/22・23)	2/17・18 (2/1・2)	2/25
中期選抜	2/27・3/2	3/6	3/16

●通学圏

5つの通学圏があり、通学圏内の高校に出願できます。ただし、専門学科やコース等は府内全域で出願可能な場合が多いです。

前期選抜

●選抜方式

選抜方式は大きく3種類あり、どの方式で選抜するかは各学科で決定します。1つの学科で複数の方式を実施する場合もあります。
具体的な内容は各学科で決定するので、方式だけでなく募集要項も確認しましょう。

例) △高校 (A方式) → 報告書・学力検査 (5教科) ・面接 ※**学力検査**を重視
○高校 (A方式) → 報告書・学力検査 (3教科) ・面接・**作文** ※**報告書**を重視 など

	A方式	B方式	C方式
報告書	○	○	○
学力検査	○	×	○
面接or作文(小論文)	○	○	○
活動実績報告書	学校選択	○	学校選択
実技検査	×	×	○

●学力検査

国・数・英は共通問題が用意されており、普通科ではこれが採用されます。共通学力検査の配点は各50点満点です。また、各学校が独自に問題を作成することもでき、国数英の他に理社や学科の特性に合った専門科目が課せられる場合もあります。共通問題と独自の問題を組み合わせることもできます。どの場合でも学力検査は合わせて5教科以内の実施です。

●報告書

前期選抜での報告書は12/31現在の記録で作成されます。1～3年の9教科分 (135点満点) が報告書点となります。

普通科では基本的に学力検査：報告書＝150：135の比率で扱われますが、専門学科では独自に比率を定める場合が多いです。

中期選抜

- ・中期選抜は前期選抜で100%を募集する学科以外の全ての学科で実施され、募集定員から前期での募集人数を除いた人数を募集します。
- ・第1志望第1順位、第1志望第2順位、第2志望の最大3校に出願できます。
- ・選抜方法は全ての学校で共通です。

●学力検査

国語・数学・英語・理科・社会の5教科で実施。

国数理社は各40分、英語は筆記30分+リスニング10分の試験時間です。

各40点×5教科=200点満点

●報告書

1～3年の9教科分を選抜資料としますが、副教科の成績は2倍にして合計します。2/10現在の記録で作成されます。

$(5 \times 5 \text{科} \times 3 \text{年分}) + (5 \times 4 \text{科} \times 3 \text{年分} \times 2 \text{倍}) = 195 \text{点満点}$

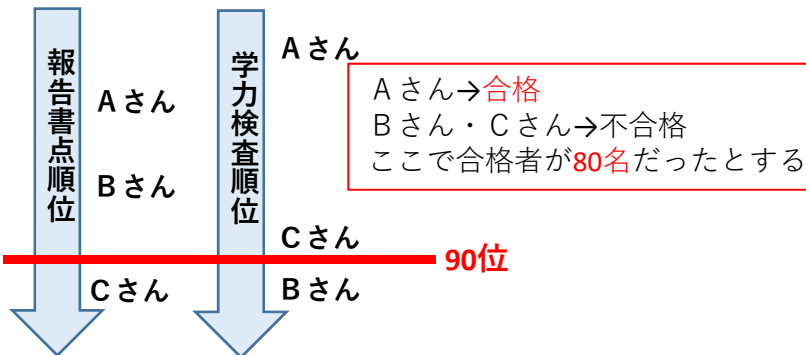
選抜方法

中期選抜における合格者の決定方法は以下の通りです。

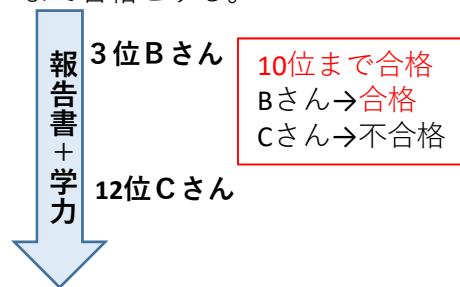
- ・第1志望第1順位で出願した人から募集人数の85～90%を決定します。
※京都市・乙訓通学圏→90%、その他の通学圏→85%
- ・残りの10～15%は合格しなかった第1順位志願者と第2順位志願者を合わせて選抜します。
- ・それで募集定員に満たない場合に第2志望の選抜が行われます。

【例】中期選抜での募集人数が100名の「〇〇高校」（90%のパターン）

- ① 第1志望第1順位の志願者のみの報告書点と学力検査点を順に並べ、それぞれ募集人数の90%内に入っていれば合格。



- ② ①で合格とならなかった人の報告書点と学力検査得点を合計し、高い順に募集人数の90%になるまで合格とする。

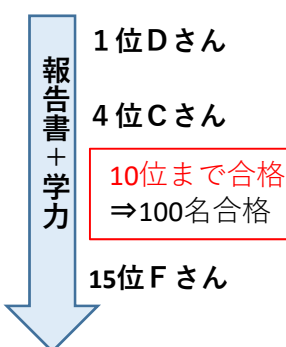


- ③ ②までで合格とならなかった人に第1志望第2順位の人を加え、報告書点と学力検査得点を合計し、高い順に募集人数の100%になるまで合格とする。

〇〇高校を第1志望第2順位にした人

- ・ Dさん
- ・ Eさん→第1順位の高校で合格
- ・ Fさん

⇒ Eさんは〇〇高校の選抜から外す



- ④ ①～③で定員に満たなかった場合、第2志望の選抜を行う。第2志望で出願した人の報告書点と学力検査得点を合計し、高い順に募集人数の100%になるまで合格とする。既に合格している人は選抜から外す。